

## 令和6年度「専修学校の国際化推進事業」

### 留学生が「学び・住み・就職して良し」の熊本県版・国際化推進事業 事業全体成果報告書

本報告書は、文部科学省の教育政策推進事業委託費による委託事業として、《一般社団法人熊本県専修学校各種学校連合会》が実施した令和6年度「専修学校の国際化推進事業」の成果をとりまとめたものです。

一般社団法人熊本県専修学校各種学校連合会

## < 目次 >

|                              |    |
|------------------------------|----|
| (1) 事業の趣旨・目的等について            | 2  |
| (2) 当該地域において取組を進める意義         | 2  |
| (3) 実施する取組の具体的内容             | 3  |
| (4) 取組に付随して実施した取組            | 7  |
| (5) 今年度に取り組んだ具体的な内容について      | 8  |
| ○事業を実施する上で設置する会議             |    |
| (6) 事業実施に伴うアウトプット（成果物）       | 21 |
| ○海外出張                        | 22 |
| ○人材ニーズ・アンケート調査               |    |
| ○専修学校の在留学生、卒業生状況アンケート調査      |    |
| ○教育機関、行政機関、団体への事例研究調査        |    |
| ○ターゲット国、ターゲット分野の日本語教育機関等との提携 |    |
| ○国内の日本語学校との提携                |    |
| ○多言語学習アプリの運用                 |    |
| ○「外国人留学生に選ばれる熊本」プラン策定        |    |
| ○台湾人留学生向けの短期滞在受け入プログラム       |    |

## (1) 事業の趣旨・目的等について

・熊本県の外国人留学生数は、2023 年で、1,112 人と全国のわずか 0.4%に満たない。留学生受入れ中の専門学校は 11 校(24%)、受入れ数は 438 人と少なく、しかも受け入れ国に偏りがある。一方で、今後留学生を受け入れたい、関心はあるが受け入れがよくわからないが 11 校(24%)もあり、関心度の高さと受け入れの課題が分かっている。

・そこで、留学生が「学び・住み・就職して良し」の熊本を目指し、専修学校、企業・団体と熊本県、国際交流団体が一体となり、戦略的な留学生の受入れや国内定着を見据えた就職支援等を行っていく。

・具体的には、半導体産業にも関わる IT 分野、県内で人材不足が緊急の課題となっている宿泊分野、慢性的な人材不足の介護分野を外国人留学生の受入れの 3 分野とし、これから受入れを促進していきたい新規国として、モンゴルとミャンマーを設定し、さらに熊本県の喫緊の課題である台湾の 3 か国をターゲットとする。

・(1)入学前⇒(2)在学中[教育指導]⇒(3)在学中[在籍管理、生活サポート]⇒(4)就職・定着支援が一気通貫した事業を展開して、外国人留学生の戦略的受入れの促進と就職先企業との連携も踏まえた円滑な就職、その後の定着までを見据えた熊本版トータルパッケージモデルを構築する。

## (2) 当該地域において取組を進める意義

### i) 外国人留学生の受け入れ推進に向けたターゲット国(地域)

|       |      |    |
|-------|------|----|
| ミャンマー | モンゴル | 台湾 |
|-------|------|----|

### ii) 外国人留学生の受け入れ推進に向けたターゲット分野

|       |      |      |
|-------|------|------|
| IT 分野 | 宿泊分野 | 介護分野 |
|-------|------|------|

#### ○熊本県における外国人留学生の現状

・留学生を受け入れる専修学校の専門課程の学科が少ない(25 課程)こと、留学生を最初に受け入れる日本語科が圧倒的に少ない(7 学科)。

・受け入れ国が、ネパール、ベトナム(全体の 85%)と大変偏っている。

#### ○熊本県の TSMC 進出の影響と人材の課題・対応

・半導体企業では様々な職種の人材が必要で、その中で、IT 分野の人材育成・確保が挙げられている。

・TSMC 社員と共に来日してくる台湾人の家族の日本語教育問題が課題となっている。

#### ○熊本県の IT 分野、宿泊分野、介護分野の人材不足

・県内の正社員求人倍率(令和 6 年 4 月)では、「介護サービス職業」が 3.20(県平均 1.05)と圧倒的に高く、人材不足(求人数 3,231 人)である。特に、日本人の求職者数(1,011 人)が少ないので、外国人材の活用も積極的である。IT 分野、宿泊分野も同様に人材不足である。

○ターゲット国の設定：①ミャンマー②モンゴルは、専修学校熊本 YMCA 学院、九州中央リハビリテーション学院が熊本県と連携して、介護分野の留学生受入れ事業を実施していた実績があること、イデア IT カレッジ阿蘇では留学生を受け入れていること。両国とも親日であり、勤勉な学生が多いこと。ターゲット国③台湾は、TSMC 進出による台湾との人材交流の強化の課題があり、専修学校熊本 YMCA 学院では留学生受入れの実績が

### (3)実施する取組の具体的内容

#### ① 入学前

(1) ー1. 専修学校の留学生受入れ校、受入れ学科の拡大 R6～9 年度

○未受入れ校向け「新規留学生・受入れ促進の懇談会」R6～9 年度

- ・対象者：県内の留学生受入れを検討する専修学校の経営者・担当者
- ・回数：リアルとオンラインを併用して 2 回程度/年

(1) ー2. 「企業ニーズ調査、専修学校調査、先行事例調査」 R6～9 年度

①企業人材ニーズ・アンケート調査

・熊本県内の企業を対象に外国人材・留学生の採用に関するニーズ調査を実施し、企業ニーズの実態を把握する。また就職・定着への具体的なマッチングの情報収集とする。

IT 分野、宿泊分野、介護分野、その他企業

②専修学校の在留学生、卒業生の状況アンケート調査

③教育機関、行政機関、団体への事例研究調査

(1) ー3. 「外国人留学生に選ばれる熊本」プラン策定 R6 年度

・県内専修学校の留学生受入れ校、受入れ課程の拡大をおこなうことを目指して、【外国人留学生に選ばれる熊本】プランの策定を行う。

・行政、学校、業界団体が継続して事業を推進・サポートしていくための策定を行う。

(1) ー4. ターゲット国の日本語教育機関等との提携 R6～9 年度

・各ターゲット国でターゲット分野における日本語教育機関・大学等との提携を加速するため、現地交流会や連携協定の締結を行う。

・ミャンマー × IT 分野、宿泊分野、介護分野

・モンゴル × IT 分野、介護分野 ・台湾 × IT 分野、宿泊分野

(1) ー5. 国内の日本語学校との提携 R6～8年度

・ターゲット国受入れの実績がある国内の日本語学校との提携を同時に進めていく。

(1) ー6. ターゲット国での熊本留学フェアの開催 R7～9 年度

・熊本県の専修学校を広く国外に発信し、より多くの外国人留学生が熊本県を留学先として認知してもらうために、熊本県留学フェア・説明会を実施する。(オンライン併用とする)

- ・ミャンマー、モンゴル、台湾 各国 1 回/年ずつ開催 R7～9 年度
- ・熊本県の専修学校 数校が学校説明会
- ・熊本県の魅力を発信、個別の質疑応答、相談会

(1) —7.ターゲット国内でのワンストップ情報センターの設置

- ・熊本県における留学・就職情報、奨学金等の補助に関する情報に触れることができるワンストップ情報センターを設置する。単発の熊本県留学フェア・説明会の告知だけではなく、常時、熊本への留学への相談や就職等の相談の窓口と合わせて、情報発信の拠点としていく。併せて、熊本県との連携を図り、相談窓口を設け、留学から就職までの一貫したサポート体制を構築する。

→岡山大学の OJC(岡山日本語センター)による広報活動が成功例。

(1) —8.多言語ウェブサイト構築、動画制作と情報発信 R7～9 年度

○多言語パンフレット、動画制作(新規)

- ・熊本県の専修学校を広く国内外に発信し、より多くの外国人留学生在が熊本県を留学先として認知し、各専修学校の外国人留学生誘致をサポートとするものとして、また熊本県で学ぶ留学生在が様々な支援サービスの情報を容易に入手できる多言語パンフレット(デジタルパンフ)及び YouTube 動画を製作する。

○SNS 等による情報発信・広告(新規)

- ・上記で作成した多言語パンフレット(デジタル)、YouTube 動画を 3 か国に在住する留学生に向けて効果的に、SNS 等による情報発信・広告を行う。
- ・3 か国の事情に対応したメディアミックスによる広報を行う。
- ・熊本留学フェアの開催も告知のコンテンツの1つとし、現地の日本語教育委機関と連携して情報発信を行っていく。

## ② 在学中〔教育指導〕

(2) —1.留学生向け日本語能力強化策(多言語学習アプリ運用) R7～9 年度

○多言語学習アプリを活用した教育サポート

- ・熊本への留学を希望する学生に対して、留学前に日本語能力試験に合格することを目標に、また在学中に生活や仕事についての知識を得ることが出来る学習アプリを運用する。専門学校在学中に日本語能力を N1、N2 に高めるための自主学習のツールとして有効である。

(2) —2. 台湾人留学生在向け短期滞在受プログラムとモニター実施 R7～9 年度

- 台湾人留学生在が、観光ビザの短期間で熊本県にきて、滞在しながら日本語および日本文化について学習するプログラムを策定する。

- 遊学(短期プログラム)プログラムの受入れをモニターとして実施する
- ・内容: 専門学校+地域自然・文化体験、自治体連携プログラムを作成
- ・実施機関: R7 年度 ・1~2W/1~3か月間のプログラム(一部滞在費の助成)
- ・参加者: 6人 20代~40代

### ③ 在学中〔在籍管理、生活支援サポート〕

- (3) ー1. 教職員向け「在留管理、就職支援セミナー」 R7~9 年度
- 教職員向け「留学生担当教職員向けセミナー」
  - ・学生の受入れ、学生管理、卒業後の進路(就職)に関し、要点を解説することで、留学生管理の一助とする。留学生の就労範囲が拡大される中で、最新の動向を伝えるセミナーとする。
  - 教職員向け「外国人留学生就職支援セミナー」
  - ・外国人受入れの新たな制度創設や改正の動きの中、外国人留学生の就職率向上に向けてどのような支援をしていくべきか、企業事例などの紹介を通じて産学連携のあり方を考える一助とする。
- (3)ー2. 留学生向け「オンライン就職・生活相談窓口」 R8~9 年度
- ・「熊本県外国人サポートセンター」と連携して、オンライン面談式での相談窓口を開設する。オンライン面談式 (熊本県外国人サポートセンターと連携)

### ④ 就職・定着支援

- (4)ー1. 企業・民間団体向け「外国人就職に関する定期的情報提供」R7~9 年度
- ・R6 年度企業むけ調査で、外国人材の雇用に関する情報提供を希望する企業が 50 社にのぼり、専門学校の卒業生と企業のマッチング支援をサポートできる。また、「外国人留学生に選ばれる熊本」プランとも連動して、行政、民間団体、業界団体、企業と専修学校のコミュニケーションを定期的に図っていく。
  - ・行政、民間団体、業界団体、企業、専修学校の外国人材の雇用に関する情報の定期的発信(コンテンツは、各行政、民間団体、業界団体、専修学校のもの)
  - ・ニュースレターの発行: メール便、年 4 回、セミナー、意識啓発等の案内
- (4)ー2. 企業向け「留学生受入れ促進セミナー」 R7~9 年度
- ・これから留学生を受け入れる企業向けに、留学生受け入れの際の注意事項や就労制度、出身国の文化・宗教に対する理解を深めるセミナーを実施する。
- (4)ー3. 3分野「留学生就職・定着フェア」 R7~9 年度
- ・「留学生に選ばれる熊本」を目指して、就職・定着までを見据えた3分野「留学生就職・定着フェア」を開催する。
  - くまもと産業振興エキスポ「KUMAMOTO EX2024」の合同出展

○3分野「留学生就職・定着フェア」の開催

(4)ー4. 留学生向け「インターンシッププログラム」 R8～9 年度

○ IT 分野、宿泊分野、介護分野別職場体験

・分野別の職場体験を実施。留学生の参加率向上のため、実施は夏休み期間中とする。

(実施期間)夏休み期間中の1日～3日間

○IT 分野、宿泊分野、介護分野別インターンシッププログラムの実施

・上記の職場体験後、希望の企業でインターンシップを実施。受け入れ期間は就労先と調整し、数週間～1か月程度を想定する。

(4)上記(3)の取組に付随して実施した取組(実態調査を含む。)

◎事業成果の検証

(1)入学前 ⇒(2)在学中〔教育指導〕⇒(3)在学中〔在籍管理、生活サポート〕⇒(4)就職・定着支援が一通貫した事業となるように PDCA サイクルをまわしていく。

- (1)-1専修学校の留学生受入れ校、受入れ学科の拡大
- (1)-2企業ニーズ調査、専修学校調査、先行事例調査
- (1)-3「外国人留学生に選ばれる熊本」プラン策定
- (1)-4ターゲット国の日本語教育機関等との提携
- (1)-5国内の日本語学校との提携
- (1)-6ターゲット国での熊本留学フェアの開催
- (1)-7ターゲット国内でのワンストップ情報センターの設置
- (1)-8多言語ウェブサイト構築、動画制作と情報発信

- (2)-1多言語学習アプリの運用
- (2)-2台湾人向け短期滞在型・プログラム

- (3)-1教職員向け「在留管理、就職支援セミナー」
- (3)-2オンライン就職・生活相談窓口

- (4)-1企業・団体向け「外国人就職に関する定期的情報提供」
- (4)-2企業向け3分野「留学生受入れ促進セミナー」
- (4)-33分野「留学生就職・定着フェア」
- (4)-4留学生向け3分野インターンシッププログラム

## (5)今年度に取り組んだ具体的な内容について

### (1)入学前

#### (1)ー1. 専修学校の留学生受入れ校、受入れ学科の拡大

○未受入れ校向け「新規留学生・受入れ促進の懇談会」

- ・対象者:県内の留学生受入れを検討する専修学校の経営者・担当者
- ・回数:リアルとオンラインを併用して R6 年度に 1 回開催

⇒2024 年 10 月 18 日(水) 13:30~15:00 意見懇談会の開催 13 校の参加

#### (1) ー2. 「企業ニーズ調査、専修学校調査、先行事例調査」

##### ① 企業人材ニーズ・アンケート調査

・IT 分野、宿泊分野、介護分野の熊本県内の事業者 合計 200 件

⇒224 件の回答、集計・分析結果 別添

##### 【要約・課題】

・回答者で現在外国人を雇用している企業は、37%、過去雇用を含めると、43%社と、雇用状況は高い。国籍に関係なく優秀な人材の確保が 39%等とポジティブな雇用理由が高い。今後外国人材の雇用について、現在募集中が 14%、検討しているが 32%、合計 46%と多くみられる。専門学校卒業生の雇用についても、意向があるが 40%とある。

・一方、雇用に至らない理由、検討していない理由は、社内に受け入れ体制が整っていないが 29%、外国人への指導や煩雑な事務に対応できないが 18%とあり、社内の体制の課題が大きいと言える。一方、募集や雇用の仕方がわからないが 9%とあり、雇用までの道筋が見えないことも課題としてある。

\*外国人材の雇用に関するセミナー等の情報提供を具体的に希望する企業が 45 社にのぼり、関心の高さと共に、企業への外国人材の雇用・定着にむけた取り組みや専門学校の卒業生と企業のマッチング支援をサポートできるデータを収集することができた。

\*専門学校の留学生を雇用するニーズは高いので、情報の提供、マッチング支援を行うことで、県内企業への定着の可能性は見えていると考えられる。

##### ② 専修学校の在留学生、卒業生の状況アンケート調査

・熊本県内の専修学校 40 件

⇒40 件の回答、集計・分析結果は別添

##### 【要約・課題】

・R6 年(R5 年)留学生受け入れ学校 9(11)校、22(25)学科

・留学生数 630 人(438 人)内、ミャンマー、モンゴル、台湾の留学生 9 人(8 人) 個別の専門学校の留学生数が大幅に上がった(ネパールが 8 割)。

・受け入れ学校 9 校と減少したが、再び受け入れたい、新たに受け入れたい 13 校を含めて、受入れに入れに前向きな学校は、20 校になる。

・留学生受け入れの課題は、留学生の生活サポート 9 校と最も多く、学費等の支弁能力 8 校、日本語教育の質、教師の確保が 8 校、留学生の募集・獲得が 6 校となった。

・「日本語学習アプリの使用」に関して特に参加意向 8 校と高かった。

・一方、留学生を受け入れない学校については、留学生を受け入れる態勢・環境が整備

されていないが 15 校、留学生を受け入れる方針や方向性がないが 10 校となる。

\* 県内の留学生は 630 人と大幅に増えたが、要因は個別の専門学校の留学生数が大幅に上がった(ネパールが 8 割)ため。新たに受け入れたいが 13 校とあるので、県内全体での受入れ学校、学科数の拡大、留学生数の拡大の可能性はある。

ターゲット国の留学生は 9 人と少ないので、今後の手立てを必要とする。

### ③ 教育機関、行政機関、団体への事例研究調査

・全国の教育機関、行政機関、団体 7 件 別添

⇒7 件の事例調査を実施。留学生受入れを支援している行政(県)や他県の専門学校連合会や留学生を受け入れている町営の日本語学校の事例をピックアップした。

#### (1) —3. 「外国人留学生に選ばれる熊本」プラン策定

・県内専修学校の留学生受入れ校、受入れ課程の拡大をおこなうことを目指して、【外国人留学生に選ばれる熊本】プランの策定を行った。別添

・本プランは、【外国人留学生に選ばれる熊本】を実現していくために、令和 6 年度から令和 9 年度の 4 か年間で、熊本県専修学校各種学校連合会が本事業の中で主体的に取り組む事業に加えて、熊本県全体で熊本県、各専門学校、業界団体に取り組むもの、また連携しながら推進していく事業を俯瞰的に整理・記載した。

#### (1) —4. ターゲット国の日本語教育機関等との提携

・各ターゲット国でターゲット分野における日本語教育機関・大学等との提携を加速するため、現地訪問、日本語教育機関との連携、熊本留学フェアの打診、留学生市場調査を行った。⇒レポート詳細結果は別添

・ターゲット国:ミャンマー、モンゴル、台湾の 3 か国への訪問

・ターゲット分野:IT 分野、宿泊分野、介護分野に関心が高い日本語教育機関への訪問

・日本語教育機関への訪問・提携の打診

モンゴル 5 件、ミャンマー 8 件、台湾 7 件数 合計 20 件

・今年度は、初回訪問と今後の提携の可能性を打診してきた。来年度から具体的な個別の提携等を行っていく。

(モンゴル)日本語教育機関から既に関東、大阪の日本語学校への一定のルートが構築されているが、熊本の専門学校へ流れをつくることは十分可能である。まずは、熊本県内外の日本語学校及び専門学校(日本語課程あり)との個別提携を促進する。

・動画・パンフレット(デジタルパンフ)で、「熊本県・専門学校で学ぶ、住む、就職する」ことを、視覚的に魅力が伝わり、統一感があるものを作成する。(熊本への訴求力)

・モンゴル国内での熊本県の留学フェアは、単独開催では参加意欲につながりにくい。留学フェアへの出展やジャパンフェスティバルへの参画を検討する。

(台湾)TSMC の影響で、熊本に対する認知度は格段に上がっている。旅行者を含めてビジネス・交流機会はますます増える。留学は専門学校の本科生への入学は少ないと考えられ、短期・遊学での受入プログラムを設ければ、台湾人のニーズに合い、留学生の受け入れを進めやすい。遊学・短期プログラム(1~2W/1~3か月間、語学+観光、文化体

験、語学等)の開発を行い、専門学校として受け入れ促進する。

(ミャンマー)・経済的に厳しい学生が多く、奨学金制度の充実が求められている。国の情勢もあり、日本への留学のニーズや可能性は高い。日本語学校の教育の質の差が大きいことから、正しい情報を共有する仕組みが求められている。

・近年は特定技能から留学への在留資格変更を行うケースも出てきている。特定技能生の受け入れに対して専門学校側が慎重な姿勢であり、進学支援体制が不十分といえる。→学校側の審査基準の見直しや、企業との連携を強化することで、特定技能生が安心して進学できる環境を整備していく必要がある。

・介護分野の留学生の供給はある程度見込める。

#### (1) ー5.国内の日本語学校との提携

・ターゲット国、ターゲット分野の国内での日本語学校との提携業務 4校

⇒今年度は、ターゲット国の日本語教育機関の開拓が主であったために、国内での日本語学校との提携も打診程度にとどまっている。(4校)

来年度から具体的な個別の提携をおこなっていく。

・熊本県内外の日本語学校で、ミャンマー、モンゴル、台湾の3か国からの留学生を受け入れて、熊本県内のIT分野、宿泊分野、介護分野の専門課程に入学させる趣旨に賛同する日本語学校を開拓して進めていく。

#### (2) 在学中[教育指導]

##### (2)ー1.留学生向け日本語能力強化策(多言語学習アプリの運用導入)

・学習コンテンツの提供 日本語学習、日本の生活・就職マナー

・モンゴル語、中国語(繁体)2か国を翻訳する

既に、日本語、英語、中国語(中文)、ベトナム語、インドネシア語、ミャンマー語、ネパール語対応。アプリの利用をおこなう。

・アプリ利用: R6年度 150アカウント

⇒モンゴル語、中国語(繁体)2か国の翻訳対応完了。

・県内の専門学校の留学生に150アカウントを提供して、多言語学習アプリを導入して、利用してもらった。

##### (2) ー2. 台湾人留学生向けの短期滞在プログラム策定

・台湾人留学生が、観光ビザの短期間で、熊本県に滞在しながら日本語および日本文化について学習するプログラムを策定する。3プログラムの開発をおこなった。

⇒プログラム詳細は別添

・遊学・短期プログラム(1~2W/1~3か月間、語学+観光、文化体験、語学等)の開発を行い、次年度以降に専門学校として受け入れ促進する。

## 【R6 年度の課題と総括】

\* R6 年 10 月から事業スタートと短い期間ではあったが、熊本県、企業の 3 分野の業界団体、多文化共生の民間団体との連携を含めた体制を固めることができた。

\* 企業ニーズ調査から、外国人材の雇用に関するセミナー等の情報提供を希望する企業が 45 社あり、企業への外国人材の雇用・定着にむけた有益な情報提供や専門学校の卒業生と企業のマッチング支援の具体的な取組みが重要になっていく。

\* 専修学校の在留学生調査から、留学生は 630 人と大幅に増えたが、個別の専門学校の留学生数が大幅に上がったのみである。新たに受け入れたいが 13 校とあるので、県内全体での受入れ学校、学科数の拡大、留学生数の拡大の可能性はある。

・ターゲット国の留学生は 9 人と少ないので、今後の具体的な手立てを必要とする。

・また、ターゲット国以外の国からの留学生を含めて熊本への留学生を全体的に増やすことや、IT、観光、介護以外の職種の専門学校をも視野に入れるため、ターゲット以外の分野であっても今後留学生を受け入れられないかの検討を行い、取り組みの幅自体を拡大する可能性についても検討したい。

\* 熊本県が昨年立ち上げた「外国人材との共生推進本部」の施策が、R7 年度から具体的に動き出すので、「外国人留学生に選ばれる熊本」プランと連携させて、本事業の効果と相乗効果をだしていきたい。

\* 初年度の訪問で、各ターゲット国・ターゲット分野における日本語教育機関等の提携の素地はできた。一方で、ミャンマー、モンゴル、台湾からの第一段階で留学生を受け入れる日本語学校(日本語課程)が、まだ開拓されていないのが最大の課題である。

(提携の取組み例)



\* 台湾については、遊学・短期プログラム(1~2W/1~3か月間、語学+観光、文化体験、語学等)の開発を行ったので、来年度からはモニターとして受け入れを行っていく。

\* 各国によって、広報手段は変わるが、「熊本県・専門学校で学ぶ、住む、就職する」ことを、動画・パンフレット(デジタルパンフ)で、視覚的に魅力が伝わり、統一感があるものを作成する。(個別の専門学校の情報+熊本の生活や就職、定着魅力への訴求力)

\* モンゴル国内での留学フェアは、単独開催では参加意欲につながりにくい。

\* ミャンマー国内では、SNS を活用した情報発信が効果的。オンライン説明会も有効である。

\* 在学前、在学中の留学生向け日本語能力強化策では、多言語学習アプリの運用導入で、モンゴル語、中国語(繁体)2か国の翻訳は完了したので、利用者数を増やして活用を促進していく。

○事業を実施する上で設置する会議

|           |  |     |      |
|-----------|--|-----|------|
| 会議名       | 国際化事業実施委員会   |     |      |
| 目的・役割     | 業界団体・企業、行政、教育機関からなるメンバーで委員を構成し、本事業の進捗に関するアドバイスをいただく機関とする。  |     |      |
| 検討の具体的な内容 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・(1)入学前 ⇒(2)在学中〔教育指導〕⇒(3)在学中〔在籍管理、生活サポート〕⇒(4)就職・定着支援の各事業に対する助言。</li> <li>・人材ニーズ調査等の各団体への働きかけ、広報。</li> <li>・各事業は相関しており、成果の活用と PDCA サイクルの進捗管理、スケジュールへのアドバイス。</li> </ul> |     |      |
| 委員数       | 10人  | 委員数 | 年間3回 |

【委員構成】

| 氏名     | 所属名                         | 役割・協力事項             |
|--------|-----------------------------|---------------------|
| 木庭順子   | 熊本県専修学校各種学校連合会 会長           | 主宰者                 |
| 赤山聖子   | 熊専各副会長、九州技術教育専門学校 校長        | IT分野受入れ、在学中の教育      |
| 志垣伸太郎  | 熊専各副会長、九州中央リハビリテーション学院 専務理事 | 介護分野・受入れ、在学中の教育     |
| 中村賢次郎  | 熊専各理事、専修学校熊本YMCA学院 校長       | 宿泊分野・受入れ、在学中の教育     |
| 西島真一   | 熊専各副会長、熊本工業専門学校 校長          | 日本語IT分野受入れ、在学中の教育   |
| 竹島 加奈子 | 専修学校熊本壺溪塾 水前寺校教務部長          | 日本語受入れ、在学中の教育(予定)   |
| 富山孝治   | 熊本県情報サービス産業協会 幹事            | IT分野・ニーズ調査、就職先・定着支援 |
| 永田祐介   | 熊本県旅館ホテル生活衛生同業組合 専務理事       | 宿泊分野・ニーズ調査、就職先・定着支援 |
| 石本淳也   | 熊本県介護福祉会 会長                 | 介護分野・ニーズ調査、就職先・定着支援 |
| 木下俊和   | JICA九州 熊本県国際協力推進員           | 県内外国人と企業と繋がりネットワーク  |

【オブザーバー】

|      |                      |                |
|------|----------------------|----------------|
| 櫛本麻理 | 熊本県 知事公室 国際課 課長      | 国際交流団体との連携・調整  |
| 霜出豊和 | 熊本県 商工労働部 商工政策課 審議員  | 業界・企業との連携・調整   |
| 西村 徹 | 熊本県 健康福祉部 高齢者支援課 審議員 | 介護団体・企業との連携・調整 |

|      |  |    |          |
|------|--|----|----------|
| 会議名  | 第1回委員会   |    |          |
| 日時   | 2024年10月3日13:30～15:00  | 場所 | 壺溪塾 坪井本校 |
| 出席者  | <p>委員：○木庭 順子(熊本県専修学校各種学校連合会 会長)/ ○赤山 聖子(九州技術教育専門学校 校長)/○竹島 加奈子(専修学校熊本壺溪塾 水前寺校教務部長)/○中村 賢次郎(専修学校熊本YMCA学院 校長)/○志垣 伸太郎(九州中央リハビリテーション学院 専務理事)/○井手 修身(イデアITカレッジ阿蘇 校長)/○ 富山 孝治(熊本県情報サービス産業協会 幹事)/○永田 祐介(熊本県旅館ホテル生活衛生同業組合 専務理事 ※オンライン)/○木下 俊和(JICA九州 熊本県国際協力推進員)</p> <p>オブザーバー：○櫛本 麻理(熊本県 商工労働部 国際観光戦略課 課長)/ ○ 霜出 豊和(熊本県 商工労働部 労働雇用創生課 審議員)/○ 西村 徹(熊本県 健康福祉部 高齢者支援課 審議員)/○山田 史郎(熊本工業専門学校 校長)/○徳永 隆裕(熊本県専修学校各種学校連合会 理事)/○ 鈴木 俊良(イデアITカレッジ阿蘇 副校長)/○梅野 直房(学校法人梅野学園 理事長)/○林田 祐典(熊本県旅館ホテル生活衛生同業組合事務局長※オンライン)</p> <p>事務局：○鋤崎 麻理(熊本県専修学校各種学校連合会 事務局)/○田村 菜実(イデアパートナーズ株式会社)</p>   |    |          |
| 議題   | <ul style="list-style-type: none"> <li>●事業計画の説明</li> <li>●各業界での外国人の取り組みの状況について意見交換</li> <li>●ターゲット国を選定した理由</li> <li>●アンケート調査説明</li> </ul>  |    |          |
| 議事内容 | <p>(事業計画の説明)<br/>事務局より、資料をもとに説明<br/>(熊本県からの事業説明)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■櫛本氏から「熊本県外国人材との共生推進本部」の説明</li> <li>■霜出氏から「外国人材の受け入れ推進」の説明</li> <li>■西村氏から「外国人介護人材確保に向けた取組み」の説明</li> </ul> <p>(各業界での外国人の取り組みの状況について意見交換)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■永田氏<br/>宿泊業界：ビジネスホテル等でカウンター業務を主にするところであれば技人国でいいという話もあるが、清掃や調理等の現場スタッフが足りていないため特定技能の採用になっている。国内の受入機関とも連携している。インターンシップは、基本的には半年～1年間と期間は短い、できる内容が多い。それぞれの在留資格によって、できる仕事や価値観は変わる。どのような人材が必要とされているのかは、多種多様な状況の中で変化していている。</li> <li>旅館独特のシフトは、日本人にも選ばれにくく、外国人材も慣れずに短期間で辞めてしまうので、働き方改革を意識しないと、外国人材すら働いてくれない未来が来るかもしれない。<br/>山間部は交通の便が悪く就労期間が終われば、人材が去ってしまう傾向がある。</li> <li>■富山氏<br/>IT業界：海外に子会社を作ることが多い。自社に外国人材を採用し育てる場面が少ない<br/>日本語の読み書きが必要なため、ハードルがある持ち帰りができる大手の仕事であれば、外国人材を育てながらできるが、小さな会社は育てる余裕がない。リモートワークが進み、東京の会社に人がとられる傾向がある。<br/>熊本らしさのあるあたたかいコミュニティ作ればいいと思う。外国人の文化のコミュニティが必要。</li> <li>■木下氏<br/>外国人コミュニティは既にいくつかあり、フィリピン、インドネシア、ネパール、ベトナム<br/>イスラムセンター等がある。<br/>カンボジア人のコミュニティは、リーダー的存在がいなくて、SNSで繋がっている。カンボジア正月イベントでは他県からも参加者が集まり、300名程が参加(主催：海外送金の会社)<br/>ミャンマー人も増えている。(阿蘇方面で増えている)</li> <li>■山田氏<br/>外国人の留学生を増やすために、県内での就職先(受け入れ先)を増やさないといけない。<br/>企業から聞かれる声として、「定着させる手続きが良くわからない」、「以前雇用した外国人が良くなかった」等受け入れの準備が出来ていない意見が挙がる。<br/>県として企業に対して外国人材受け入れに関するアドバイスをしてほしい。巡回して指導する等。半導体は日本人も定着しにくい。</li> <li>■霜出氏<br/>技能実習生が多いが、企業が求めている人材が技人国ということもあり、今年度県で実施する外国人雇用に関する事業では、高度人材や技人国のマッチングが出来ないかと動いている。窓口設置だけではなく、セミナーや就労環境改善などにも働きかけていく。</li> <li>■志垣氏<br/>就職後のビザ変更までを、学校側もサポートをしている。</li> <li>■木下氏<br/>留学生用のSPIはないので、学校の成績表のようなものを見ることが出来れば採用の際の指標として助かる。</li> <li>■鈴木氏<br/>普段学校でSPI対策をしていないので、就活の際に不利。入社内定書や誓約書を書く際に学校に相談があるので、どのような対応にするか議論になっている。</li> <li>■井手<br/>住環境の連帯保証に関して、留学生の場合日本に身寄りがないので、課題となっている。<br/>富山県では、健康保険や住居の申込の際に県の財団がサポートすることが出来る制度が整っている。留学生が熊本で生活する際のハードルを低くする必要がある。</li> </ul> |    |          |

|      |  |
|------|--|
| 議事内容 | <p>■木下氏<br/>インターンシップは企業側の負担にもなり、ITの場合は長くても1週間。情産協の中でも2年間インターンシップを受け入れているのは、弊社だけ。インターンシップ実施の際はそのような状況も加味してほしい。</p> <p>■中村氏<br/>YMCAでは台湾から毎年1~2人ほどを受入、1ヵ月間インターンプログラムに参加している。宿泊施設での研修等を実施している。それ以外にも独自にボランティアツアーリズムを作り、受入をしている。</p> <p>(留学生をまだ受け入れてない専門学校が本事業を通じて受け入れを検討してほしい)</p> <p>■木庭氏<br/>情報キャリア課を来年度に設立するので、その中に留学生を受け入れることが出来ればと考えている。</p> <p>■赤山氏<br/>商工会議所にも留学生受け入れについて、話をされる機会があるが、居住地の確保が難しく、人吉なので水害で賃貸が少なく、家賃が高いという課題がある。市営住宅の上階を留学生に開放する案を市に持ち掛けているが、進んでいない。</p> <p>■山田氏<br/>留学生に選ばれるためには、アルバイトとアパートがあるかが大事。アルバイトは28時間働けて時給は1000円以上じゃないと働かない。アパートは2万円以下(3万円以上でない2人入居可)でないに住まない。アルバイト先の斡旋を学校側が行っているの、他で時給の良いバイトがあると、そちらに流れてしまう。</p> <p>(ターゲット国を選定した理由)</p> <p>■ミャンマー：留学生が増えており、日本での学びに意欲的なため<br/>■モンゴル：文科省の受入推進国に入っているため<br/>■台湾：TSMCの影響もあるため</p> <p>(アンケート調査説明)<br/>井手より、資料をもとに説明</p> <p>■霜出氏<br/>半導体企業へ取次、工業連合会の窓口を紹介する</p> |
|------|--|

|      |   |    |          |
|------|---|----|----------|
| 会議名  | 第2回委員会  |    |          |
| 日時   | 2024年12月26日13:30～15:00  | 場所 | 壺溪塾 坪井本校 |
| 出席者  | <p>委員：○木庭 順子(熊本県専修学校各種学校連合会 会長)/○赤山 聖子(九州技術教育専門学校 校長)/○竹島 加奈子(専修学校熊本壺溪塾 水前寺校教務部長)/○中村 賢次郎(専修学校熊本YMCA学院 校長)/○竹村 敦博(熊本駅前看護リハビリテーション学院)/○富山 孝治(熊本県情報サービス産業協会 幹事)/○永田 祐介(熊本県旅館ホテル生活衛生同業組合 専務理事※オンライン)/○石本 淳也(熊本県介護福祉会会長)/○木下 俊和(JICA九州熊本県国際協力推進員)</p> <p>オブザーバー：○尾上(JICA九州 熊本県国際協力推進員)/○遠藤(熊本県国際政策相談役兼熊本県立大学特任教授)/○櫛本 麻理(熊本県 商工労働部 国際観光戦略課 課長)/○大村 克行(熊本県 商工労働部 商工政策課 課長)/○西村 徹(熊本県 健康福祉部 高齢者支援課 審議員)/○古閑 莉沙子(熊本県 健康福祉部 高齢者支援課 主任主事)/○鋤崎 麻理(熊本県専修学校各種学校連合会 事務局)/○井手 修身(アイデアパートナーズ株式会社)/○鈴木 俊良(アイデアITカレッジ阿蘇 副校長)/○今井 走(アイデアパートナーズ株式会社)/○田村 菜実(アイデアパートナーズ株式会社)/○深堀(日本ITシステム株式会社)</p>  |    |          |
| 議題   | <ul style="list-style-type: none"> <li>●事業及び実施取組に関する進捗報告</li> <li>●ターゲット国訪問についての報告</li> <li>●留学生向け多言語学習アプリ運用について</li> <li>●企業における外国人材雇用に関する実態調査報告について</li> <li>●専修学校の留学生の状況アンケート調査報告</li> <li>●外国人留学生に選ばれる熊本プランについて</li> </ul>  |    |          |
| 議事内容 | <p>(事業及び実施取組に関する進捗報告)</p> <p>井手より、資料をもとに説明</p> <p>① ターゲット国の訪問報告：モンゴル、台湾報告</p> <p>② 企業における外国人材雇用に関する実態調査報告</p> <p>③ 専修学校の留学生の状況アンケート調査方向</p> <p>④ 留学生向け多言語学習アプリ運用について</p> <p>⑤ 外国人留学生に選ばれる熊本プランについて</p> <p>(①ターゲット国の訪問報告：モンゴルの説明)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・訪問期間：2024年11月12日～15日（3泊4日）</li> <li>・訪問先：日本語教育機関、JICA、送り出し機関、日本大使館など8カ所。</li> <li>・概要：モンゴル人口：360万人（首都ウランバートル180万人）<br/>月平均収入：約10万円だが日本車所有率が高い。<br/>留学生数：約3700人（人口1万人あたりではネパールに次ぐ高水準）<br/>日本留学後の進学先は専門学校が約6割を占める。<br/>興味関心のある分野の傾向：IT分野、観光分野</li> <li>・課題：モンゴルにおける専門学校の位置づけが弱いことから、専門学校への進学意識の向上に向けた施策が必要と感じた。</li> </ul> <p>熊本への留学を促進するための日本語教育機関との連携。<br/>熊本独自の奨学金制度や生活支援制度の必要性。<br/>(モンゴル訪問に関する所感)</p> <p>■木庭氏：<br/>親日的な国民性が感じられ、熊本・阿蘇の風景の親和性やone-pieceのような日本のコンテンツへの関心が強いことから、熊本への留学を促進する可能性がある。関東方面との差別化を図り、魅力発信していく手法、ツールの必要性を感じた。</p> <p>■中村氏：<br/>今のモンゴルにおいて大学進学が65%という現状。専門学校という考え方は少ないが「高専」に関しては国としても力を入れつつあることから、専門学校的な職業訓練等に目が向いてくるのでは、という意見も現地での意見交換で伺った。日本・熊本への興味が高まりつつある今だからこそ、まずは一人でも実績を作り、そこを足掛かりに展開していくのが良いと思う。</p> <p>(①ターゲット国の訪問報告：台湾の説明)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・訪問期間：2024年12月15日～18日（3泊4日）</li> <li>・訪問先：台北、台中、日本語教育機関、送り出し機関、YMCAなど。</li> <li>・概要：台湾人口：2340万人（都市部集中）。<br/>留学ビザ取得者数：約3万6000人。<br/>日本への留学生：5000名。アメリカに次いで2位。<br/>多様な留学形式：言語留学、遊学、ワーホリ<br/>TSMCもきっかけとなり、熊本への認知度は高い。</li> <li>・課題：熊本に対する興味関心度合いが高いが、短期（3ヶ月程度）の留学プログラムなどの台湾の多様な留学ニーズにマッチしたプログラムが少ない。<br/>熊本県への留学促進のための効果的な広報活動が不足している。</li> </ul> |    |          |

議事内容

(台湾訪問に関する所感)

■中村氏

台湾の留学ニーズに合わせ、まずは留学というよりも短期のプログラムでの受け入れを第一に考えてはどうかと思っている。現状、関東・関西が中心だが、熊本を選んでもらうきっかけづくりの為、県や熊専各が中心となって、台湾の教育機関とも、横のつながりを強めていきたい。

■櫛本氏：

今回検討されている短期滞在プログラムの情報を共有いただければ、県としても連携していきたい。2月の産業エキスポではブース出展等もされると思うので、その際のフィードバックも共有することで、連携をブラッシュアップしていきたい。

(④留学生向け多言語学習アプリ運用について)

■深堀氏(日本ITシステム株式会社)

アプリ：対象言語：日本語、英語、ベトナム語、モンゴル語、繁体字中国語など8言語対応。

コンテンツ：日本語能力試験（JLPT）対応問題、生活・ビジネスマナー教育。

利用方法：スマートフォンおよびPCからアクセス可能。

今年度は試験導入予定（150人対象）。来年度より本格運用開始。

(④企業における外国人材雇用に関する実態調査報告について)

井手より、資料をもとに説明

対象：熊本県内のIT、医療福祉、宿泊・飲食業界の180社。

外国人雇用率：約48%。（87社）

雇用状況：5名以下が75%

在留資格：技人国 26%、技能実習 20%、特定技能 14%

雇用理由：国籍に関係なく優秀な人材の確保 44%

業務上に外国語が非常に必要 12%

海外展開 4%

賃金が安い 4%

採用に向けた課題：日本語教育の不足

社内受け入れ体制の整備不足

雇用に関するプロセスの情報不足

(④企業における外国人材雇用に関する実態調査報告についての所感)

■富山氏

IT業界：肌感としては専門知識やスキルを重視しての採用が多いのでは、と考えていたが、実態調査の結果から見るに、長時間日本の生活に適應しているかどうか採用の鍵になっていることに意外に感じた。IT業界の雇用形態は他分野に比べてドライな傾向があり、コミュニケーションコストを削減する文化が存在することから、その傾向が結果として現れたのでは、と感じる。

■永田氏

宿泊関連：宿泊業界の結果に関して、在留資格に関して、特定技能・技能実習・技人国と、ばらけている点が意外に感じた。熊本県としてもインバウンド客の比率が都市部だけでなく地方部でも増加傾向にあることから、旅館・ホテルが今後の留学生の就職活動に関する情報を求めている点が興味深く感じた。就業中のスキルアップとビザ更新を促進する仕組みが業界として必要と思う。

■石本氏

行政による全県的な介護分野における外国人雇用に関するアンケート調査を提案したい。技能実習生の失踪リスクを低減し、介護事業所での定着を促進する機運を高め、外国人が熊本県で働きたいと思うような方策が必要。

■大村氏

熊本県としても、今の外国人材の受け入れ支援というところ、本部会議を立ち上げ、取り組みを進めている。県のHPでも外国人受け入れに関して優良事例を掲載しているので、多くの企業に知ってもらい、取り組みの機運を高めていくことで、外国人材の理解・定着につながると考えている。2月の産業エキスポでも機会があれば県としても発表させていただきたい。

■西村氏

高齢者支援課の観点から考えるに、台湾、モンゴルの方が直接介護職として働くというだけでなく、介護経営を学びたいというニーズがあるということが非常に興味深い。今後は商工政策課とも連携して取り組みを加速させたい。

|      |  |
|------|--|
| 議事内容 | <p>(③専修学校の留学生の状況アンケート調査報告)<br/>井手より、資料をもとに説明<br/>回答：40校<br/>概要：留学生の受け入れ実態は、令和5年度573人（前年438人）と大幅増。<br/>ネパールが77%を占め、海外からの直接が半分、残りが熊本県内、県外の日本語学<br/>校から来られている状況。（熊本県内2割）<br/>留学生の受け入れ状況：現在受け入れている→9校<br/>今後受け入れたい →4校<br/>受け入れを検討 →7校<br/>留学生の受入の理由：グローバルな環境で学びを生み出したい<br/>日本の学生だけでは学生を確保できない<br/>就職先からの留学生の要望が増加<br/>留学生の受入の際の課題：留学生の生活サポート。学費の支弁能力。日本語教育の質の<br/>問題。アルバイト先の確保。<br/>留学生受入校の要望：日本語学習アプリの整備。留学生支援セミナー。留学生の相談窓口</p> <p>(③専修学校の留学生の状況アンケート調査報告を受けての所感)<br/>■木庭氏<br/>日本語学校、学科が少ないことが熊本県の留学生の少ないひとつの要因としてあげられると思うため、熊本県<br/>自体も留学生受け入れに目を開いたタイミングでもあることから、国際化推進事業を契機として、委員会で密<br/>な連携をとり、熊本県への留学生受け入れを進めていきたいと思います。</p> <p>(⑤外国人留学生に選ばれる熊本プランについて)<br/>■井手<br/>今回、事業の中で行っている専門学校の受け入れ実態調査の結果や企業向けの留学生採用に関する調査結果を<br/>踏まえた上で、熊本県進められている外国人受け入れの施策も鑑み、委員会を含めた様々な団体の取り組みを<br/>統合するかたちで、ひとつのプランとして整理していきたい。目標として令和9年度には700人の留学生を受け<br/>入れ、200人を就職に結びつけることを設定。</p> |
|------|--|

|      |  |    |          |
|------|--|----|----------|
| 会議名  | 第3回委員会   |    |          |
| 日時   | 2025年2月26日10:00～12:00  | 場所 | 陸溪塾 坪井本校 |
| 出席者  | <p>委員：○木庭 順子(熊本県専修学校各種学校連合会 会長)/○竹島 加奈子(専修学校熊本壱溪塾 水前寺校教務部長)/○中村 賢次郎(専修学校熊本YMCA学院 校長)/○志垣 伸太郎(九州中央リハビリテーション学院 専務理事)/○富山 孝治(熊本県情報サービス産業協会 幹事)/○石本 淳也(熊本県介護福祉社会会長)/○木下 俊和(JICA九州 熊本県国際協力推進員)</p> <p>オブザーバー：○榎本 麻理(熊本県 商工労働部 国際観光戦略課 課長)/○霜出 豊和(熊本県 商工労働部 労働雇用創生課 審議員)/○尾上 智織(JICA九州 熊本県国際協力推進員)/○遠藤浩昭(熊本県国際政策相談役兼熊本県立大学特任教授)/○大村 克行(熊本県 商工労働部 商工政策課 課長)/○西村 徹(熊本県 健康福祉部 高齢者支援課 審議員)/○西島 真一 (熊本工業専門学校 校長) /○古閑 莉紗子(熊本県 健康福祉部 高齢者支援課 主任主事)/○鋤崎 麻理(熊本県専修学校各種学校連合会 事務局)/○井手 修身(アイデアパートナーズ株式会社)/○鈴木 俊良(アイデアITカレッジ阿蘇 副校長)/○今井 走(アイデアパートナーズ株式会社)/○田村 菜実(アイデアパートナーズ株式会社)</p>  |    |          |
| 議題   | <ul style="list-style-type: none"> <li>●事業及び実施取組に関する進捗報告</li> <li>●ターゲット国訪問についての報告</li> <li>●留学生向け多言語学習アプリ運用について</li> <li>●企業における外国人材雇用に関する実態調査報告について</li> <li>●専修学校の留学生の状況アンケート調査報告</li> <li>●外国人留学生に選ばれる熊本プランについて</li> </ul>   |    |          |
| 議事内容 | <p>(事業及び実施取組に関する進捗報告)</p> <p>井手より、資料をもとに説明</p> <p>① ターゲット国の訪問報告：ミャンマー報告</p> <p>② 令和6年度 熊本県国際化事業の報告</p> <p>③ R7年度 事業計画について</p> <p>④ 外国人留学生に選ばれる熊本プランについて</p> <p>【①ターゲット国の訪問報告：モンゴルの説明】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・訪問期間：2025年1月21日～25日（3泊5日）</li> <li>・訪問先：日本語教育機関、JICA、送り出し機関、など10カ所。</li> <li>・概要：人口5,131万人（2024年12月時点）、平均月収1万円</li> </ul> <p>国への不信感から銀行への預金は少ない。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>→ 残高証明等の発行が難しい。</li> <li>→ 保険に関して国民保険等はなく、近年民間の事業として広がりがつづめる。</li> <li>→ 実勢レートと公示レートに大きな差がある</li> </ul> <p>(弊害：経済の不安定による投資鈍化、海外送金時の混乱等)</p> <p>○課題：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・経済的に厳しい学生が多く、奨学金制度の充実が求められている。</li> <li>・奨学金制度や専門学校の情報不足しており、情報発信の強化が必要。同様に日本語学校の教育の質の差が大きいことから、正しい情報を共有する仕組みが求められている。</li> <li>・銀行書類や収入証明書の偽造が横行しており、申請書類の整備や学生へのリテラシー周知が必要。収入証明書の代替手段や証明書類の整備が必要</li> <li>・近年は特定技能から留学への在留資格変更を行うケースも出てきている。特定技能生の受け入れに対して専門学校側が慎重な姿勢であり、進学支援体制が不十分といえる。</li> <li>→ 一学校側の審査基準の見直しや、企業との連携を強化することで、特定技能生が安心して進学できる環境を整備</li> </ul> <p>(ミャンマー訪問に関する所感)</p> <p>■木庭氏：<br/> 学生一人一人の日本語の学習意欲、日本での就労意欲は高いことから、そのエネルギーを熊本にきたい、に結びつけることができるか、議論を深めていかなければいけない。介護分野に関しては年上を敬う習慣が残っており、親しみやすい国民性もあることから、可能性が感じられた。これからは、どのように熊本のアピールをおこなっていくかが課題。<br/> 台湾に関しては留学、特に専門学校への留学に関しては魅力が伝えることが難しいと感じたため、遊学の切り口から熊本の魅力を伝える必要があると感じた。</p> <p>■中村氏：<br/> ミャンマーから国外に出るためには、どうすればいいかという試行錯誤を重ねている、というところに非常に複雑な思いを感じた。日本としては働き口、受け入れ先をどのように整えるかが課題。留学がゴールというよりも、就職っていうところを、どうこちらが用意してあげるかというのは非常に大事と感じた。<br/> 熊本は人数は少ないかもしれないが、来られているミャンマーの方々から、熊本はいいよとか、熊本の生活、教育環境もいいよということはどう伝えてもらうかっていうのが大きなところ思っている。台湾に関しては遊学がキーワードだとも思う。モンゴル、実績がすくないことから、まずはひとりでも受け入れを行うことが必要と感じた。</p> |    |          |

|      |   |
|------|---|
| 議事内容 | <p>(ミャンマー訪問に関する所感)</p> <p>■鈴木氏<br/>現在の国の情勢という特殊な事情や、ある一定のリスクがあるというのがミャンマーの難しさでもあると思うが、やっぱりポテンシャルは本当に高い国で、その点は変わらないと感じた。ミャンマーの入管に関してはブラックボックスで判断がぶれる部分があるが、熊本県の関わる事業であり、文科省とかも関わっていることを活かし、グレーなところをプラスに変えていけると感じている。</p> <p>【台湾 遊学プログラム】<br/>概要：留学というかたちで学校で学ぶのではなく、熊本の文化とか観光とか、ときには不動産であったりとかですね、様々なものを学びたいというニーズがあり、経費支援と全く問題なく、参加者が全部自己負担できる支弁性の為、熊本県の観光課と連動して受け入れていくような遊学プランを作り込みに向けて検討中。<br/>一案) YMACA<br/>熊本YMCAで行っていた、1週間から2週間ぐらいのボランティアアットリズムをベースとして、観光プラス体験プラス日本語学習というようなことを形としてできるのではないかと考えている。</p> <p>【他の地域のサポート体制事例】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 富山県 公益財団法人と国際センターが窓口<br/>一県独自の奨学金を設定。健康保険の加入の助成。住宅の問題においても、連帯保証の引き受け制度</li> <li>・ 大分 APU 一私費外国人留学生奨学金制度</li> <li>・ 鹿児島県 一生活費や住宅費等々の貸付制度</li> <li>・ 福岡 一留学生サポートセンター</li> <li>・ 北海道 東川町 一留学生滞在プログラムの実施</li> </ul> <p>【② 令和6年度 熊本県国際化事業の報告】</p> <p>◆事業全体の進捗</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 令和6年度の事業進捗状況について説明。</li> <li>・ 主要ターゲット国: ミャンマー、モンゴル、台湾。</li> <li>・ 対象分野: IT、宿泊、介護分野での外国人材確保を推進。</li> </ul> <p>◆企業の人材受け入れ調査<br/>企業向けアンケート調査結果を共有。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 回答数: 224件。</li> <li>・ 受け入れ企業の割合: 約40%が過去または現在受け入れ経験あり。</li> <li>・ 情報提供希望: 45社が外国人材に関する詳細な情報提供を希望。</li> <li>・ 政策反映: 令和7年度の政策立案に向け、調査結果を活用。</li> </ul> <p>◆専門学校の留学生受け入れ状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 回答校: 40校。</li> <li>・ 留学生数の推移: 令和5年度438名 → 令和6年度630名（増加傾向）。</li> <li>・ 受け入れ校の変化: 11校 → 9校（減少）。</li> <li>・ 受け入れ意向: 40校中20校が今後の受け入れを希望。</li> <li>・ 国籍偏在: ネパール出身の留学生が最も多く、特定国への依存が課題</li> </ul> <p>◆「選ばれる熊本プラン」策定</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ JICAや熊本プラスと事前調整済み。</li> <li>・ 本日の会議で内容の具体化に向けた意見交換を実施予定。</li> </ul> <p>◆ターゲット国の日本語教育機関との提携</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 日本語教育機関との連携状況。</li> <li>・ ミャンマー: 9機関と接触済み。</li> <li>・ モンゴル: 8機関との提携可能性を検討中。</li> <li>・ 台湾: 7機関と協議を進めている。</li> <li>・ 合計: 21機関と連携を図る。</li> <li>・ 初回訪問を実施し、具体的な提携の可能性を探る。</li> </ul> <p>◆国内の日本語学校との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 令和6年度はターゲット国への訪問を優先。</li> <li>・ 令和7年度以降、国内の日本語学校との連携強化を進め、送り出し機関との協力体制を整備。</li> </ul> <p>◆日本語能力強化・多言語アプリの運用</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ モンゴル語・中国語の翻訳完了。</li> <li>・ ベトナム語・インドネシア語の翻訳も完了し、多言語対応を強化。</li> <li>・ 留学生受け入れ校に対し、150アカウントを付与し活用を促進。</li> </ul> <p>◆台湾向け短期滞在プログラム</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ YMCAより、1週間～3ヶ月の短期プログラム提案があり、詳細を検討中。</li> <li>・ 留学生の事前体験機会を提供することで、熊本への定住促進を図る。</li> </ul> |
|------|---|

|      |  |
|------|--|
| 議事内容 | <p><b>【事業総括への所感】</b></p> <p>■造藤氏<br/>日本語学校との連携にあたり、県内の日本語学校と県外の日本語学校ごとに熊本県への定着に向けた導線の整理が必要。隣の県である立地を生かして、熊本への誘致を図る観点も持つべき。県内の日本語学校が少ない現状において、こちらの増加の施策も検討する必要があると思われる。</p> <p>■石本氏<br/>介護の分野で絞って考えた際に、人材不足が喫緊の課題となっている現状において、留学という形で日本に来られるよりも、特定技能で入って、すぐにでも現場に入ってほしいのが正直なところである。そのため、即入国して働くということのすぐ稼げるというメリット感と、日本に行き、学んで在留資格まで得て、有資格者として働くことのメリットの、明確な差とをちょっと打ち出さないといけないと思う。</p> <p>→造藤氏<br/>・アングラモデル（海外で学んだ学生が日本で短期間インターンを行う）について紹介。<br/>・インターンシップの仕組みとして大学と連携しつつ企業側が内定を出し、その後サポートする形が望ましい。<br/>・専門学校では1年単位の受け入れが基本だが、半年単位や短期間のインターンの可能性を模索。<br/>・九州中央の例では、学生がアルバイトとして介護施設で働くケースが既に存在。<br/>・アルバイト収入には限界があり、インターンシップとしての体系的な支援が必要。</p> <p>■富山<br/>IT、介護、観光分野の雇用状況について言及。IT分野は雇用数が少なく、特に熊本の企業は請負型が多いため、長期雇用が難しい。IT業界ではマーケティングやWebコンテンツ関連の仕事が増加。熊本県もIT企業誘致を進めているが、リモートワークが主流のため、地域での就職支援が課題。IT業界での留学生の受け入れは難しく、適応支援が求められる。</p> <p>■西村氏<br/>外国人が直接介護施設に就職するケースと、留学生として入国するケースがある。行政として日本語学習支援や住居手当の支援を実施。外国人留学生向けの奨学金制度も整備。介護施設における実習や特定技能者への支援の強化。県の社会福祉協議会を通じた貸付制度があり、5年間介護施設で働くこと返済免除となる仕組みもあるため、活用してほしい。</p> <p><b>【③外国人留学生に選ばれる熊本プランについて】</b><br/>事務局より資料に沿って説明</p> <p><b>【熊本プランに関する所感】</b></p> <p>■霜出氏<br/>・3-2 受入環境の整備・定着環境の支援をしているので、県で実施する取り組みについては熊専各に情報提供をしていく<br/>・1-2 アンケート項目について、1-4助成金の検討について、既存制度の利用状況、課題感を入れると良いと思う。</p> <p>■棟本氏<br/>・県の情報も共有しながら、県でも関わり合いを積極的に持っていきたい。</p> <p>■西村氏<br/>・留学生の日本語能力向上を目指す取り組みをしているので、それも事業計画に組み込んでもいいかもしれない</p> <p>■造藤氏<br/>自然災害をひとつのテーマとしつつ、県では繋がり、交流、顔が見える関係を構築するべく様々な取り組みを行っている。熊本を好きになって母国に口コミを広めてほしいので、熊本を好きになるための活動を定期的に行っている為、連携していきたい。</p> <p><b>【④R7年度 事業計画について】</b><br/>事務局より資料に沿って説明<br/>令和6年度の課題を踏まえた上で、以下の事業計画を進める旨を協議・共有。<br/>・受け入れ体制の整備: 懇談会の開催を継続。<br/>・留学生アンケート: 今後4年間定期的に実施し、データ収集を行う。<br/>・熊本プランの策定: 令和7年度以降の具体的な事業と連携。<br/>・留学生向け支援の検討:<br/>①学費・住居費の一部補助の可能性を検討。<br/>②熊本県とも協議中だが、予算化が課題。<br/>③数校の専門学校が独自に支援を行う可能性も。</p> |
|------|--|

(6)事業実施に伴うアウトプット(成果物)

|                  | 取組事項  | 成果物と内容   |
|------------------|---|--|
|                  |   | 令和6年度(1年目)   |
| (1)入学前           | 1.留学生受入れ校、受入れ学科の拡大<br>・1回開催、学校10校の参加  | ・新規留学生・受入れ促進の懇談会<br>⇒1回開催実施、学校13校の参加   |
|                  | 2.留学生・人材ニーズ調査<br>①企業人材ニーズ・アンケート調査<br>・3分野含めたの熊本県内の事業者 合計200件<br>②熊本県内の専修学校 状況調査 40件 | ①企業人材ニーズ・アンケート調査<br>⇒224社の回収、外国人材採用、就業状況、在留資格、課題、専門学校の学生採用意欲等のデータ収集を行った。<br>今後の情報提供を受けたい企業 45社<br>②熊本県内の専修学校 状況調査<br>⇒40件の回収、R6年留学生受け入れ学校9校、22学科、留学生数 630人、内ミャンマー、モンゴル、台湾の留学生 9人(8人) |
|                  | 3.外国人留学生に選ばれる熊本プラン策定  | ⇒産学官共同の【外国人留学生に選ばれる熊本】プランの策定   |
|                  | 4.ターゲット国の日本語教育機関等との提携<br>・ミャンマー、モンゴル、台湾国の日本語教育機関との提携打診 3件×3か国=9件                    | ⇒ターゲット分野：IT分野、宿泊分野、介護分野に関心が高い日本語教育機関への訪問と日本語教育機関への訪問・提携の打診を行う<br>モンゴル5件、ミャンマー8件、台湾 7件数 合計20件<br>今年度は、初回訪問と今後の提携を打診してきた。来年度から具体的な個別の提携等を行っていく。  |
|                  | 5.国内の日本語学校との提携<br>4件  | ⇒今年度は、国内での日本語学校との提携も打診にとどまる。とど(4校)来年度から具体的な個別の提携をおこなっていく。  |
| (2)在学中<br>(教育指導) | 1.多言語学習アプリの言語翻訳と運用<br>・3か国言語対応、 150アカウント利用  | ⇒モンゴル語、中国語(繁体)2か国を翻訳し、3か国対応済。<br>R6年度 県内の留学生に多言語アプリの150アカウントを付与して、利用をはかる。  |
|                  | 2.台湾人向け短期滞在型プログラム<br>・3件  | ⇒台湾向け遊学・短期プログラム 3件開発   |

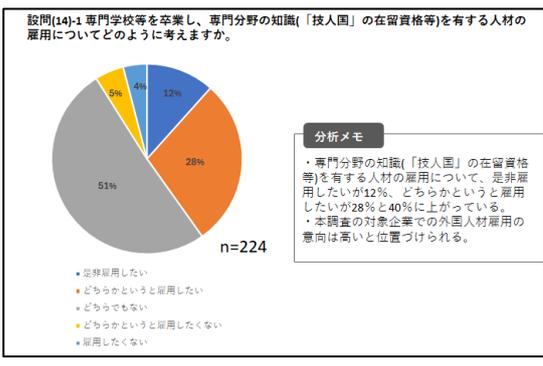
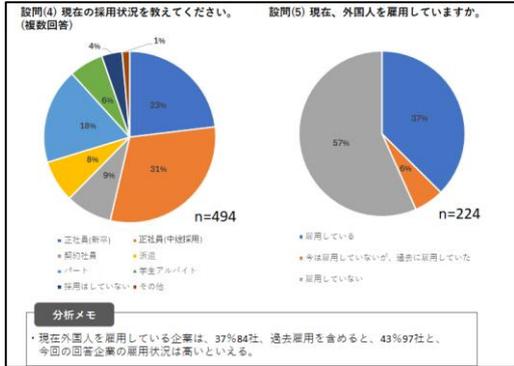
○海外出張

| 海外出張             |  |
|------------------|--|
| 出張国              | ①モンゴル  |
| 目的               | モンゴル人留学生在熊本県内の専門学校で学び、県内企業に就職・定着することの促進<br>(1) 熊専各会との定期的な情報交換のための担当者設置の開拓<br>(2) モンゴル国内日本語教育機関等と県内専門学校及び国内日本語学校との連携の開拓と市場調査<br>(3) モンゴル内熊本留学フェア(2025年夏)実施の調査   |
| 日程               | 2024年11月12日～15日  |
| 人数               | 4名   |
| 所属学校・役職名及び氏名     | 専修学校熊本壺溪塾 塾長/熊本県専修学校各種学校連合会 会長 木庭 順子<br>九州技術教育専門学校 校長/熊本県専修学校各種学校連合会 副会長 赤山 聖子<br>九州中央リハビリテーション学院 専務理事/熊本県専修学校各種学校連合会 副会長 志垣 伸太郎<br>専修学校熊本YMCA学院 校長/熊本県専修学校各種学校連合会理事 中村 賢次郎  |
| 出張先での<br>具体的取組内容 | 訪問先<br>■11月13日(水)<br>・日本大使館 専門調査員(国費留学生担当) 森山賢美様<br>・JICA 所長宮城兼輔様、中村圭吾様、ヨシムラ様、片山様、<br>・日本人材開発センター 中村功様、井崎様、ガルマーバザル様、テンギス様<br>・モンゲニ総合学校 ボルド校長代理<br>・Joto Education Center 浅海善成様<br>・GTN Mongolia CEO Yanjaa様、留学生担当 Duk様<br>■11月14日(木)<br>・Taishi Be 社長オトバヤル様、ノミン様<br>・FUJI EDU Monogolia ザヤー様<br>・できる語学センター トーラ様<br>※11/12、15は移動日 |
| 課題と所感            | 日本語教育機関から既に関東、大阪の日本語学校への一定のルートが構築されているが、熊本の専門学校へ流れをつくることは十分可能である。まずは、熊本県内外の日本語学校及び専門学校(日本語課程あり)との個別提携を促進する。<br>・動画・パンレット(デジタルパンフ)で、「熊本県・専門学校で学ぶ、住む、就職する」ことを、視覚的に魅力が伝わり、統一感があるものを作成する。(熊本への訴求力)<br>・モンゴル国内での熊本県の留学フェアは、単独開催では参加意欲につながりにくい。留学フェアへの出展やジャパンフェスティバルへの参画を検討する。   |
| 所要額              | ・国内移動交通費、宿泊費： 63,450円<br>・海外渡航交通費、宿泊費：625,502円 合計：688,952円   |

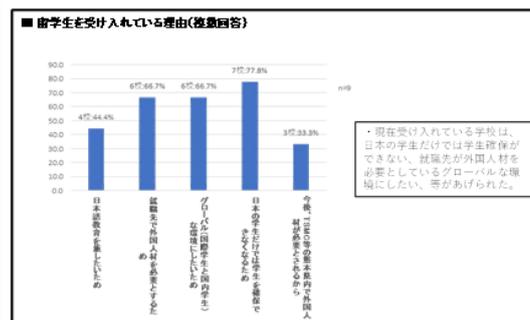
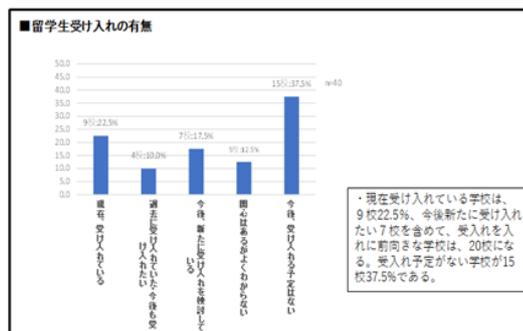
| 海外出張             |  |
|------------------|--|
| 出張国              | ②台湾  |
| 目的               | 台湾人留学生在熊本県内の専門学校で学び、県内企業に就職・定着することの促進<br>(1)熊専各会との定期的な情報交換のための担当者の設置<br>(2)台湾内の日本語教育機関、高校、大学等と熊本のと個別連携の支援について<br>(留学、短期滞在、インターンシップ)<br>(3) 2025年以降に開催予定の「台湾内熊本留学フェア・説明会」の情報発信支援や参画について   |
| 日程               | 2024年12月15日～18日  |
| 人数               | 4名   |
| 所属学校・役職名及び氏名     | 専修学校熊本壺溪塾 塾長/熊本県専修学校各種学校連合会 会長 木庭 順子<br>九州技術教育専門学校 校長/熊本県専修学校各種学校連合会 副会長 赤山 聖子<br>九州中央リハビリテーション学院 専務理事/熊本県専修学校各種学校連合会 副会長 志垣 伸太郎<br>専修学校熊本YMCA学院 校長/熊本県専修学校各種学校連合会理事 中村 賢次郎  |
| 出張先での<br>具体的取組内容 | 訪問先<br>■12月15日(日)<br>・YMCA台湾 シン様<br>■12月16日(月)<br>・ACD留学センター 傑士達文化事業有限公司 林(リン)様<br>・UFJapan 呂(ロウ)様、盧(ロウ)様、李(リ)様<br>・日学館留学中心 繁田様、帳様、吉田様<br>・新高通顧問股份有限公司 黄(アンナ)様、黄(ヒンヨウ)様、劉様<br>・肥後銀行 台湾支所 本島様、園田様、林(リン)様<br>■12月17日(火)<br>・台中YMCA サイ様、楊(ヨウ)様、林(リン)様<br>・僑泰高校 日本語学科 陳(チン)様<br>・東禾国際外語学校 三藤様、ショウ様<br>・熊本県事務所 上田様<br>※12月18日は移動日 |
| 課題と所感            | TSMCの影響で、熊本に対する認知度は格段に上がっている。旅行者を含めてビジネス・交流機会はますます増える。留学は専門学校の本科生への入学は少ないと考えられ、短期・遊学での受入プログラムを設ければ、台湾人のニーズに合い、留学生の受け入れを進めやすい。遊学・短期プログラム(1～2W/1～3か月間、語学+観光、文化体験、語学等)の開発を行い、専門学校として受け入れ促進する。   |
| 所要額              | ・国内移動交通費、宿泊費： 5,700円<br>・海外渡航交通費、宿泊費：691,950円 合計：697,650円  |

| 海外出張         |  |
|--------------|--|
| 出張国          | ミャンマー  |
| 目的           | ミャンマー人留学生が熊本県内の専門学校で学び、県内企業に就職・定着することの促進<br>(1) 熊専各会との定期的な情報交換のための担当者設置の開拓<br>(2) ミャンマー国内日本語教育機関等と県内専門学校及び国内日本語学校との連携の開拓と市場調査<br>(3) ミャンマー内熊本留学フェア(2025年夏)実施の調査<br>(4) ミャンマーの留学生市場、分野ニーズの調査  |
| 日程           | 2025年1月21日～25日   |
| 人数           | 5名   |
| 所属学校・役職名及び氏名 | 専修学校熊本壺溪塾 塾長/熊本県専修学校各種学校連合会 会長 木庭 順子<br>専修学校熊本YMCA学院 校長/熊本県専修学校各種学校連合会理事 中村 賢次郎<br>九州中央リハビリテーション学院/熊本県専修学校各種学校連合会 委員 野島 謙一郎<br>学校法人青照学舎 熊本駅前看護リハビリテーション学院/熊本県専修学校各種学校連合会 委員 竹村 敦博<br>専修学校熊本壺溪塾企画本部長/熊本県専修学校各種学校連合会 委員 竹島加奈子  |
| 出張先での具体的取組内容 | <b>■1月22日(水)</b><br>・JICAヤンゴンオフィス<br>次長 平野潤一様、菅原侑子様、石黒洋平様、田中雅彦様<br>・株式会社ジェイサット<br>マーケティングマネージャー 遠藤加菜様<br>・オリオンIT専門学校 情報ビジネス科<br>石川尚子様<br><br><b>■1月23日(木)</b><br>・国際交流基金ヤンゴン日本文化センター<br>副所長 下里雛乃様、日本語上級専門家 小松原奈保様、<br>日本語専門家(外国人材担当) 雄谷マユミ様<br>生活日本語コーディネーター 横山清夏様<br>・岡山大学日本留学情報センター(ミャンマー)<br>アソシエイトコーディネーター トウトウヌエエ様<br>・MAJA EDUCATION CENTRE<br>Educatin Executive THU ZAR WIN様<br>・J Compass Education Co.,Ltd<br>代表 郡司義貴様<br><br><b>■1月24日(金)</b><br>・Yu Japanese Language Academy<br>founder Yu Wai Haing様<br>・ZEN MIRAI ミャンマー<br>代表 石原みほし様<br>・キンキン株式会社 スクールエージェンシー<br>代表取締役社長 キンキントウエ様<br>※1/21、25は移動日 |
| 所要額          | ・国内移動交通費、宿泊費：41,972円<br>・海外渡航交通費、宿泊費：1,156,685円 合計：1,198,657円  |

|       |   |
|-------|---|
| 調査名   | ①企業人材ニーズ・アンケート調査  |
| 調査目的  | 本調査では県内企業における外国人雇用の現状を把握するとともに、今後の外国人材の受入の意向や課題、専修学校卒の留学生の雇用に対する意向を調査した。  |
| 調査対象  | 熊本県内を主としたIT分野、宿泊分野、介護分野の事業者   |
| 調査手法  | 各分野の業界団体、県、関係機関を通じて、アンケート(WEBと郵送)調査を実施する。ニーズの高い事業者には、更にヒアリング調査を行う。  |
| 調査数期間 | IT分野、宿泊分野、介護分野の熊本県内の事業者 合計200件<br>⇒224件の回答、集計・分析結果 別添<br>実施期間:2024年10月1日～1月24日  |
| 調査項目  | ・外国人の雇用状況<br>・外国人を雇用する上での課題や取り組み<br>・今後の雇用<br>・専門学校卒の学生採用に関する具体的な意向   |
| 分析内容  | <p>・回答者で現在外国人を雇用している企業は、37%、過去雇用を含めると、43%社と、雇用状況は高い。国籍に関係なく優秀な人材の確保が39%等とポジティブな雇用理由が高い。今後外国人材の雇用について、現在募集中が14%、検討しているが32%、合計46%と多くみられる。専門学校卒業生の雇用についても、意向があるが40%とある。</p> <p>・一方、雇用に至らない理由、検討していない理由は、社内に受け入れ体制が整っていないが29%、外国人への指導や煩雑な事務に対応できないが18%とあり、社内の体制の課題が大きいと言える。一方、募集や雇用の仕方がわからないが9%とあり、雇用までの道筋が見えないことも課題としてある。</p> <p>* 外国人材の雇用に関するセミナー等の情報提供を具体的に希望する企業が45社にのぼり、関心の高さと共に、企業への外国人材の雇用・定着にむけた取り組みや専門学校の卒業生と企業のマッチング支援をサポートできるデータを収集することができた。</p> <p>* 専門学校の留学生を雇用するニーズは高いので、情報の提供、マッチング支援を行うことで、県内企業への定着の可能性は見えていいると考えられる。</p> |
| 所要額   | 3,000,000円(税別)  |



|      |  |
|------|--|
| 調査名  | ②専修学校の在留学生、卒業生の状況アンケート調査   |
| 調査目的 | 熊本県内の専門学校で、専門課程/日本語課程で留学生の受け入れの状況と進路、及び卒業生の就職状況を調査し、把握する。また、留学生を受け入れていくにあたっての問題点、課題等を明らかにして、熊本県全体での課題解決につなげていく。  |
| 調査対象 | 熊本県内の専門学校 対象者 40件  |
| 調査手法 | 熊本県専修学校各種学校連合会を通じて、アンケート(WEBと郵送)調査を実施する。更にヒアリング調査を行う。  |
| 調査数  | 熊本県内の専門学校 対象者 40件⇒回収40件  |
| 調査項目 | <ul style="list-style-type: none"> <li>* 在留学生: 専門課程/日本語課程、</li> <li>* 性別、在籍区分、国別留学生数、</li> <li>* 学校の方針: 令和7年度の留学生の受け入れ希望数:</li> <li>* 令和7年度以降の留学生の受け入れ希望数:</li> <li>* 留学生の受け入れをしていきたい理由、</li> <li>* 留学生を受け入れていくにあたっての問題点、課題等</li> </ul>  |
| 分析内容 | <p>・R6年(R5年) 留学生受け入れ学校 9(11)校、22(25)学科</p> <p>・留学生数 630人(438人)内、ミャンマー、モンゴル、台湾の留学生 9人(8人) 個別の専門学校の留学生数が大幅に上がった(ネパールが8割)。</p> <p>・受け入れ学校9校と減少したが、再び受け入れたい、新たに受け入れたい13校を含めて、受入れに入れに前向きな学校は、20校になる。</p> <p>・留学生受け入れの課題は、留学生の生活サポート9校と最も多く、学費等の支弁能力8校、日本語教育の質、教師の確保が8校、留学生の募集・獲得が6校となった。</p> <p>・「日本語学習アプリの使用」に関して特に参加意向8校と高かった。</p> <p>・一方、留学生を受け入れない学校については、留学生を受け入れる態勢・環境が整備されていないが15校、留学生を受け入れる方針や方向性がないが10校となる。</p> <p>* 県内の留学生は630人と大幅に増えたが、要因は個別の専門学校の留学生数が大幅に上がった(ネパールが8割)ため。新たに受け入れたいが13校とあるので、県内全体での受入れ学校、学科数の拡大、留学生数の拡大の可能性はある。</p> <p>ターゲット国の留学生は9人と少ないので、今後の手立てを必要とする。</p> |
| 所要額  | 2,400,000円(税別)   |





## ①ターゲット国、ターゲット分野の日本語教育機関・学校等との提携業務

### ■日本語教育機関への訪問・提携の内容と総括

・各ターゲット国でターゲット分野における日本語教育機関・大学等との提携を加速するため現地訪問、日本語教育機関との連携、熊本留学フェアの打診、留学生市場調査を行った。

・ターゲット国：ミャンマー、モンゴル、台湾の3か国への訪問

・ターゲット分野：IT分野、宿泊分野、介護分野に関心が高い日本語教育機関への訪問

・日本語教育機関への訪問・提携の打診

モンゴル5件、ミャンマー9件、台湾 7件数 合計21件

・今年度は、初回訪問と今後の提携の可能性を打診してきた。来年度から具体的な個別の提携等を行っていく。

(モンゴル) 日本語教育機関から既に関東、大阪の日本語学校への一定のルートが構築されているが、熊本の専門学校へ流れをつくることは十分可能である。まずは、熊本県内外の日本語学校及び専門学校(日本語課程あり)との個別提携を促進する。

・動画・パンフレット(デジタルパンフ)で、「熊本県・専門学校で学ぶ、住む、就職する」ことを、視覚的に魅力が伝わり、統一感があるものを作成する。(熊本への訴求力)

・モンゴル国内での熊本県の留学フェアは、単独開催では参加意欲につながりにくい。留学フェアへの出展やジャパンフェスティバルへの参画を検討する。

(台湾) TSMCの影響で、熊本に対する認知度は格段に上がっている。旅行者を含めてビジネス・交流機会はますます増える。留学は専門学校の本科生への入学は少ないと考えられ、短期・遊学での受入プログラムを設ければ、台湾人のニーズに合い、留学生の受け入れを進めやすい。遊学・短期プログラム(1~2W/1~3か月間、語学+観光、文化体験、語学等)の開発を行い、専門学校として受け入れ促進する。

(ミャンマー) ・経済的に厳しい学生が多く、奨学金制度の充実が求められている。国の情勢もあり、日本への留学のニーズや可能性は高い。日本語学校の教育の質の差が大きいことから、正しい情報を共有する仕組みが求められている。

・近年は特定技能から留学への在留資格変更を行うケースも出てきている。特定技能生の受け入れに対して専門学校側が慎重な姿勢であり、進学支援体制が不十分といえる。

→学校側の審査基準の見直しや、企業との連携を強化することで、特定技能生が安心して進学できる環境を整備していく必要がある。

・介護分野の留学生の供給はある程度見込める。

## ②国内の日本語学校との提携業務

### ■日本語学校との提携業務の内容と総括

#### ■趣旨

一般社団法人熊本県専修学校各種学校連合会が、留学生が「学び・住み・就職して良し」の熊本県版・国際化推進事業（文部科学省委託事業）において、国内の日本語学校との提携業務を行った。

具体的には、ターゲット国、ターゲット分野の国内での日本語学校との提携業務で、熊本県内外の日本語学校で、ミャンマー、モンゴル、台湾の3か国からの留学生を受け入れて、熊本県内のIT分野、宿泊分野、介護分野の専門課程に入学させる流れの提携を行う。

#### ■業務内容と課題

本年度は、熊本県内外の日本語学校で、ミャンマー、モンゴル、台湾の3からの留学生を受け入れる可能性のある学校について、打診をおこなった。

熊本県専修学校各種学校連合会の会員2校と福岡の日本語学校、熊本市に新設予定の日本語学校。

具体的には、R7年度（令和8年4月）からターゲット国から直接留学生を受け入れるため、現地の日本語教育機関との提携を行い、学生募集活動を一緒に行っていく。

今年度は日本語学校へのヒアリングと提携の打診を行ったが、ターゲット国の日本語教育機関の開拓と提携打診が主であったために、国内での日本語学校との提携は、その後のアプローチとなり、打診程度にとどまっている。（4校）

また、既存の日本語学校や日本語課程のある専門学校では、既に提携している国や日本語送り出し機関との受入れ人数の枠があり、新規で受け入れ枠を設ける部分の難しさがある。

・来年度は、熊本県内外の日本語学校で、ミャンマー、モンゴル、台湾の3か国からの留学生を受け入れて、熊本県内のIT分野、宿泊分野、介護分野の専門課程に入学させる趣旨に賛同する日本語学校を開拓して進めていく。

#### ■対象：

- ①専修学校熊本Y M C A学院
- ②熊本工業専門学校
- ③GAG日本語学院（福岡）
- ④熊本国際日本語学校（熊本に新規開校予定）

|       |  |
|-------|--|
| 件名    | 「多言語学習アプリの運用」業務（アプリ利用料）  |
| 納品日   | 2025年1月16日   |
| 納品物詳細 | <p>学習者向けアプリの利用環境の提供</p> <p>①. スマートフォン版および Web 版（PC ブラウザ版）での提供</p> <div data-bbox="483 387 608 651"> </div> <p>スマートフォン版 ダウンロードURL<br/> Android向け： <a href="https://x.gd/CKf1Z">https://x.gd/CKf1Z</a><br/> Apple向け： <a href="https://x.gd/x3HXR">https://x.gd/x3HXR</a></p> <p>←アプリトップ画面</p> <p>Web版 アプリURL<br/> <a href="https://web.learntowork.app/">https://web.learntowork.app/</a></p> <div data-bbox="1015 622 1339 875"> </div> <p>アプリログイン画面→</p> <p>②. 学習管理者向けアプリ Web 版（PC ブラウザ版）での提供</p> <div data-bbox="493 992 826 1211"> </div> <p>学習管理者画面URL<br/> <a href="https://admin.learntowork.app/">https://admin.learntowork.app/</a></p> <p>管理アカウント発行学校（4校）<br/> 熊本工業専門学校、熊本YMCA学院、<br/> 九州中央リハビリテーション学院、<br/> イデアITカレッジ阿蘇</p> <p>ログインID・パスワードは、各校に対してそれぞれ発行</p> |

|     |   |
|-----|---|
| 調査名 | 「留学生に選ばれる熊本」プラン   |
| 目的  | 【外国人留学生に選ばれる熊本】を実現していくために、令和6年度から令和9年度の4か年間で、熊本県専修学校各種学校連合会が本事業の中で主体的に取り組む事業に加えて、熊本県全体で熊本県、各専門学校、業界団体が取り組むもの、また連携しながら推進していく事業を俯瞰的に整理・記載したものを。   |
| 内容  | <p style="text-align: center;"><b>基本理念</b></p> <p style="text-align: center;">【外国人留学生に選ばれる熊本】<br/>学んでよし・住んでよし、就職してよしの多文化共生のまち・熊本</p> <p style="text-align: center;"><b>1. 県内に留学したくなる受入れ促進を支援する取組み</b></p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>①-1. 専修学校向け「新規留学生・受入れ促進の懇談会」 <span style="float: right;">熊専各</span></li> <li>①-2. 専修学校状況アンケート調査 <span style="float: right;">熊専各</span></li> <li>①-3. 「外国人留学生に選ばれる熊本」プランの進捗確認 <span style="float: right;">熊専各</span></li> <li>①-4. 留学生向け学費・住居費の一時金支援の設置の検討 <span style="float: right;">熊専各</span></li> <li>①-5. 多言語パンフレット、動画制作 <span style="float: right;">熊専各</span></li> <li>①-6. SNS等による情報発信・広告 <span style="float: right;">熊専各</span></li> <li>①-7. ターゲット国での熊本留学フェアの開催 <span style="float: right;">熊専各</span></li> <li>①-8. ターゲット国内でのワンストップ情報センターの設置 <span style="float: right;">熊専各</span></li> <li>①-9. ターゲット国の日本語教育機関及び国内日本語学校との提携 <span style="float: right;">熊専各</span></li> <li>①-10. 留学生誘致支援「(一社)大学コンソーシアム熊本」支援 (企画課) <span style="float: right;">熊本県</span></li> </ul> </div> <p style="text-align: center;"><b>2. 県内で学びたくなる、住みたくなるを支援する取組み</b></p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>②-1. 台湾人留学生向け短期滞在受け入れモニター実施 <span style="float: right;">熊専各</span></li> <li>②-2. 留学生向け日本語能力強化策 (多言語学習アプリ運用) <span style="float: right;">熊専各</span></li> <li>②-3. (①-4.と重複)留学生向け学費・住居費の一時金支援の設置の検討</li> <li>②-4. 熊本県外国人サポートセンター運営 (国際課) <span style="float: right;">熊本県</span></li> <li>②-5. 地域日本語教室推進 (国際課) <span style="float: right;">熊本県</span></li> <li>②-6. 観光公式サイト等での多言語での情報発信、24時間多言語コールセンターの設置 (観光振興課) <span style="float: right;">熊本県</span></li> <li>②-7. 「熊本県24時間多言語コールセンター」活用の医療機関受診支援 (医療政策課) <span style="float: right;">熊本県</span></li> <li>②-8. 多文化交流の場、多文化共生の情報交換の場 <span style="float: right;">K-KURASU</span></li> </ul> </div> <p style="text-align: center;"><b>3. 県内で働きたくなる就職促進を支援の取組み</b></p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>③-1. 教職員向け「在留管理、就職支援セミナー」 <span style="float: right;">熊専各</span></li> <li>③-2. 企業・団体向け「外国人就職に関する定期的情報提供」 <span style="float: right;">熊専各</span></li> <li>③-3. 企業向け「留学生・外国人受入れ促進セミナー」 <span style="float: right;">熊専各</span> <span style="float: right;">熊専各</span></li> <li>③-4. 「留学生就職・定着フェア」「外国人材と企業のマッチングイベント」</li> <li>③-5. 外国人材活躍促進支援「やさしい日本語講座」 (高工政策課) <span style="float: right;">熊本県</span></li> <li>③-6. 相談窓口「外国人材受入企業支援センター」設置 (高工政策課) <span style="float: right;">熊本県</span></li> <li>③-7. 送出国向け熊本で働く魅力のPR動画、パンフレット、SNS配信 <span style="float: right;">熊本県</span></li> </ul> </div> |
| 所要額 | 1,500,000円(税別)  |

## 【遊学(短期プログラム)】

## ③ 1 か月間滞在行程案

## 【1日目～7日目】

熊本空港着・YMCA阿蘇キャンプへ移動

チェックイン・入浴

阿蘇頂上噴火口見学

阿蘇五岳登山・阿蘇周辺の自然散策等

阿蘇神社見学・カルデラハイキング等

農業ボランティア体験

野外料理体験等

食事について

基本的にYMCA阿蘇キャンプにて提供します。

※バーベキュー・郷土料理・野外調理・ピザ作り等

## 【8日目～15日目】

YMCA阿蘇キャンプから、熊本市内ホテルへ移動

熊本市内観光

参考：熊本観光お訪のスポット

日本語学習・フィットネス・プール・健康体操

子ども・学生との交流会等

## 【16日目～23日目】

日本文化・芸能見学、体験

日本の家庭生活を体験、家庭料理を楽しむ

地元のお祭りやイベントに参加等

## 【24日目～30日目】

オプション観光・体験プログラム

要望によって熊本県外への交通・宿泊手配も可能です。

## 【最終日】

熊本空港へ移動



## YMCA阿蘇キャンプ

熊本YMCAが提供する自然体験型の宿泊・研修施設です。阿蘇の豊かな自然に囲まれ、四季折々の風景を楽しめる場所に位置し、家族向けや子ども向けプログラムから企業研修まで幅広いニーズに対応しています。メインロジやキャビンでの宿泊に加え、専属シェフによる手作り料理も魅力の一つです。



## メインホール

YMCA阿蘇キャンプのメインロジは広々とした空間に、木の温もりが溢れます。メインホールは阿蘇五岳と自然の景色に囲まれ、研修会や音楽会、食事会など多様なイベントに対応が可能です。仲間とともに学び、楽しみむことができる空間となっています。



## 温泉

YMCA阿蘇キャンプ近くの温泉施設では、阿蘇の地熱と豊富な湧き水による温泉を楽しむことができます。自慢の広々とした露天風呂では、空気が気持ちよく、体を芯から温める特別な体験ができます。また、サウナも充実しており、心も体もリフレッシュすることができます。



## 宿泊室

YMCA阿蘇キャンプには洋室と和室、キャビンがあり、用途に応じて家族や友人と快適に過ごせます。室内には洗面台とトイレが完備され、静かな環境で家族や仲間とのひとときを楽しむことができます。和室には畳が敷かれており、日本文化を感じながらくつろげる空間となっています。



## 料理

YMCA阿蘇キャンプには専属の料理人が常駐し、日本の四季に合わせた彩り豊かな料理を提供しています。熊本ならではの郷土料理も堪能でき、物の素材を活かした一品一品が味覚で季節を感じさせます。さらに、お客様のお好みに応じた料理や、食物アレルギーを考慮したメニューにも対応でき、安心して食事を楽しむことができます。



## 星の広場

敷地内にある「星の広場」は、多目的に利用できるエリアです。テント泊やアーチェリーなど、様々なアウトドアアクティビティを楽しむことができます。夜になると星空が広がります。また、焚火やキャンプファイヤーも楽しむことができ、特別な時間となり日常から離れた空間となります。